

助産師・医療従事者・支援者のための

今どきの母乳育児の勧め方 ～コロナ禍で母乳育児のニーズは どう変わった！？～

2025

12 / 7 日

開場：9:30
10:00-12:30



専用申し込みフォーム

赤ちゃん同伴受講OK。ベビースペースあり。

◆受講修了証書

- ◎選択研修（150分）
- ◎産後ケア研修 科目⑥母乳育児支援（150分）
- ◎開業助産師ラダーⅠ承認制度研修 科目1
- マタニティケア能力（授乳に関わる支援）（150分）

会場

ちより街テラス3階ちよテラホール

高知県高知市知寄町2丁目1番37号

参加費

ハイブリッド開催 会場/ZOOM ライブ配信（アーカイブあり）
日本助産師会会員：2,500円
非会員：4,000円 学生：500円

お申し込み方法

参加申し込みは専用申し込みフォームから

<https://forms.gle/1hXuPcGMhTHf2Wv47>

申し込み締切：12月1日(月)

開催趣旨

【コロナ禍を経て、変化した母乳育児ニーズへの対応】

昨今の社会状況の変化に伴い、母乳育児を取り巻く環境は大きく変化しました。

本セミナーでは、助産師・医療従事者が直面する「情報が伝わりにくくなっている」という課題に対し、親子に寄り添い、より効果的に母乳育児を支援するための新たなアプローチを学びます。明日からの支援に役立つ、実践的な知識とスキルを習得できます。

講演01

「初めて産みたくなった」
「産むのが楽しみになった」
と言われる母乳の話

光畑 由佳氏



NPO法人子連れスタイル推進協会代表理事
有限会社モーハウス代表取締役

千葉大講師／筑波大学大学院・東京家政大学非常勤講師
倉敷出身。お茶の水女子大学被服学科を卒業後、(株)パルコでの美術企画、建築関係の編集者を経て、1997年、電車の中での授乳体験を機に、「ウェアラブルな授乳環境」として授乳服の製作を開始。「いいお産の日」の開催や自宅サロン等も通し、子育てをサポートする「モーハウス」の活動により、子育て中の女性が社会とつながるための取組みを行ってきた。ここで始めた「子連れ出勤」は青山ショップや百貨店でも過去300人が実践。国内外から注目され、商工会女性起業家大賞、内閣府女性のチャレンジ賞、お茶の水女子大学賞など受賞。

講演02

災害対策という視点で
母乳育児を考えよう！

三宅 はつえ氏



出張開業助産師

看護師4年・勤務助産師3年の後スペインに移住し邦人対象の保健指導に従事。1994年帰国後ものみ助産院を開設。行政のマタニティクラスや新生児訪問事業、育児相談や自宅出産を請け負う。「産む人と医療者をむすぶネットワークREBORN」の編集スタッフ。ニュースレターの発行や、「いいお産の日」のイベント運営、メーリングリスト「お産のお鍋」管理などを担当。NHK連続テレビ小説や大河ドラマなどの出産シーン監修も多数。2007年より2011年まで、社団法人日本助産師会茨城県支部長。2022年よりNPO法人子連れスタイル推進協会副代表理事。茨城県古河市在住

主催：一般社団法人高知県助産師会